

平成 20 年度事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 20 年度末	平成 19 年度末	増 減
1 級	1 1 社	1 1 社	0 社
2 級	5 社	5 社	0 社
3 級	2 0 社	1 9 社	+ 1 社
4 級	3 6 社	3 6 社	0 社
5 級	8 1 社	8 4 社	- 3 社
計	1 5 3 社	1 5 5 社	- 2 社

1.2 個人会員

種 別	平成 20 年度末	平成 19 年度末	増 減
普通会員	1 4 2 4 名	1 4 7 1 名	- 4 7 名
学生会員	1 1 2 名	1 0 3 名	+ 9 名
計	1 5 3 6 名	1 5 7 4 名	- 3 8 名

1.3 名誉会員 (1 5 名)

阿河 利男 阿部 芳郎 池田 功 大城 芳樹 大場 健吉 荻野 圭三 北原 文雄
櫻井 洸 佐々木恒孝 高木 徹 常盤 文克 橋本哲太郎 早野 茂夫 森 昭
渡辺昭一郎

1.4 日本油化学会フェロー (2 名)

菅野 道廣 妹尾 学

2 会務

2.1 総会

第 54 回通常総会を、平成 20 年 3 月 31 日、油脂工業会館で開催した。委任状出席を含めて 103 名の代議員の出席を得て議案を審議した。平成 19 年度事業報告および収支報告、20 年度事業計画および予算案ならびに 20 年度役員を選任等について審議され、いずれも原案通り承認・可決された。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が表彰された。

日本油化学会名誉会員に、大阪大学名誉教授 池田 功 氏が推戴された。

日本油化学会フェローに、九州大学名誉教授 菅野 道廣 氏が推戴された。

日本油化学会功績賞が、元近畿大学助教授 松嶋 健兒 氏に贈呈された。

平成 19 年度日本油化学会学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。

- ・学会賞 北海道大学大学院水産科学研究院 高橋是太郎 氏
- ・進歩賞 信州大学工学部 酒井 俊郎 氏

つづいて、講演（演題および講師：メディアの変化と化粧品消費行動 菅沼 薫 氏）が行われ、総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、第一ホテル日本橋店で開催され、60 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 19 年度一般会計・特別会計決算案および平成 20 年度同予算案、平成 20 年度会長、副会長および常務理事の選任、運営委員、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任、日本油化学会名誉会員、フェロー、功績賞および日本油化学会賞等の選考、平成 22 年度(第 49 回)および平成 23 年度(第 50 回)年会開催地の決定および実行委員長の選任等、重要案件について審議し、決定した。

出席理事 延 81 名、委任状提出理事 延 7 名、出席監事 延 6 名

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会 6 回、運営会議 2 回、名誉会員・元会長との運営懇談会 1 回、支部長連絡会 2 回をそれぞれ開催した。なお、各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	3 回	規格試験法委員会(含小委員会)	9 回
企画・部会統括委員会	4 回	役員等候補者推薦委員会	1 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	学会賞選考委員会	2 回
編集委員会(含 JOS 編集委)	6 回	功績賞推薦委員会	2 回
学術専門委員会	1 回	若手の会委員会	1 回
WCOS 2011 組織委員会	1 回	改訂版教本編集委員会	2 回
新時代展開プロジェクト	3 回	公益法人WG	3 回

運営委員会は、会員数が減少したことに伴い、理事定数を次回定款変更時に削減する方針を理事会に上程した。理事会は、平成 21 年度の理事定数を 15 名とすることを議決した。運営委員会は、平成 21 年度より運営委員の定数を改変することにし、規程を改定した。総務委員会は、下部組織であった定款・細則改訂委員会およびホームページ委員会を平成 21 年度より統合することにした。この措置により、両委員会の審議がより活発に行われることが期待される。企画・部会統括委員会は、アドバンスセミナーを企画・実施した。JOS 編集委員会は、トムソンルーター社にインパクトファクター登録申請を行い、許諾された。2009 年より実施されるが、論文の投稿数増が期待される。規格試験法委員会は、基準油脂分析試験法の一部について英文版の出版を検討し、CD 版で出版した。学術専門委員会は、わかり易い油化学の解説本の出版を検討中である。

3 事業報告

3.1 本部事業報告

本部主催の事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、基準油脂分析試験法セミナー、界面活性剤評価・試験法セミナーおよびアドバンスセミナーの5件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには2005年4月に刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用」および「界面と界面活性剤」を使用した。参加者数は延324名であった。

3.2 支部活動報告

(1) 支部委員会等の開催

- ・関東支部 常任幹事会3回、事業企画委員会3回
- ・東海支部 常任幹事会3回、支部合同役員会1回、支部将来計画委員会1回
- ・関西支部 常任幹事会3回、幹事会2回

(2) 支部の行事開催

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延12回開催し、参加者数は延778名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延57名であった。

- ・関東支部 開催回数 3回 参加者数 295名
- ・東海支部 開催回数 3回 参加者数 208名
- ・関西支部 開催回数 6回 参加者数 275名

3.3 専門部会、若手の会、マスターズクラブ活動報告

講演会、セミナー、談話会等の行事は、延26回開催し、参加者数は延1017名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延69名であった。

- ・専門部会 開催回数 19回 参加者数 797名
- ・若手の会 開催回数 1回 参加者数 68名
- ・マスターズクラブ 開催回数 6回 参加者数 152名

3.4 日本油化学会誌発行状況

(1)「Journal of Oleo Science」誌 第57巻 第1号~12号 総ページ数 710ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、2008年の英文化率は97.6%であった。電子版へのアクセス件数(抄録)は、約9,000件/月に達し、120-130カ国の人々が閲覧している。巻末の図を参照。

掲載内容	報文・ノート・速報	英文	80件	566ページ
	報文・ノート・速報	邦文	2件	22ページ
	総説	英文	3件	61ページ

(2)「オレオサイエンス」誌 第8巻 第1号~12号 総ページ数 996ページ

共通テーマを設定した総合論文の特集号を7回企画し、また会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。

掲載内容	総合論文・総説・入門講座	12件	223ページ
	研究文献抄録	359件	73ページ
	国際油脂情報	105件	56ページ
	会務・会告		329ページ
	オイルコーナー	8件	28ページ

3.5 第 47 回日本油化学会年会

関東支部の協力のもとに、秋久実行委員長を中心に実行委員会を組織して、準備、開催した。本年会は、会期 3 日間で開催した。一般講演、受賞講演等講演の合計が 258 件、参加者も 606 名と盛況であった。特にポスター発表が昨年の 60 件から、101 件へと大きく増加したが、学生奨励賞（今回はポスター発表を対象に 10 件授賞）を新設したことが効果的であった。また、インド O T A I (Oil Technologists Association of India) とのジョイントシンポジウムを開催、国際交流の拡大を図った。特別講演のひとつに、遠藤章農工大名誉教授による、スタチンの発見と開発についての講演が行われた。直前にラスカー賞受賞の報道があったこともあり、参加者で会場が満席であった。実行委員会は、第 7 回ヤングフェロー賞に土屋 好司、小西 正朗、米澤 裕子の 3 氏を選考し、エディター賞、インパクト賞およびオレオサイエンス賞の受賞者とともに懇親会において表彰した。

期 日 : 平成 20 年 9 月 17 日 (水) ~ 19 日 (金)

会 場 : 日本大学理工学部駿河台キャンパス

内 容 :

参加者総数	606 名
講演件数	258 件
・ 受賞講演	2 件
・ 特別講演	4 件
・ J O C S - O T A I ジョイントシンポジウム	6 件
・ 一般講演 (口頭発表)	126 件
(ポスター発表)	101 件
・ 専門部会ランチョンシンポジウム	8 件
・ マスターズクラブ談話会	1 件
・ 油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	10 件

懇親会 日 時 : 9 月 18 日 (木) 18 時 30 分 ~ 20 時 30 分

会 場 : 東京ガーデンパレス

参加者 : 212 名 (招待者を含む)

第 17 回 J O C S オイルカップスポーツ大会 : 9 月 19 日 (金)

- ・ ボーリング 東京ドームボウリングセンター 参加者 20 名
- ・ テニス 参加申し込み者が少なく、中止した。